

2015 年度第 4 回日本アフリカ学会北海道支部例会

第 14 回北海道大学アフリカ研究会

演題：

「アフリカ中央部熱帯林における森の先住民～～森林と野生生物の消失する中で～～」

西原智昭

自然環境保全技術顧問

WCS コンゴ共和国

要旨：

アフリカ中央部の熱帯森地域においてその自然に強く依存して生きてきた先住狩猟採集民が直面している最大の課題は3つある。一つは、世界の熱帯材需要に基づいた森林伐採による従来の生活域の変貌である。二つ目は、象牙あるいはブッシュミート目的による先住民が依拠すべき野生動物の急速な減少である。特に、熱帯林再生に関わる生態学的礎石種マルミミゾウの消失は深刻である。第三に、定住化や貨幣経済の流入、近代教育の普及に伴うその生活スタイルの急変である。その結果、長い歴史の中で培い伝承されてきた彼らの森に関する知識や技能、文化が喪失されていく。地球上の自然遺産である熱帯林とその生態系と生物多様性に対する保全に多大に貢献する担い手を失うことも懸念される。伝統回帰はもはや不可能である一方、こうした事態を招いたのは我々自身であることは忘れてはならない。そして最終的に彼らに残されている道は、文化ツーリズムの対象としてのショーの演者あるいは博物館入りなのであろうか。